

月刊



平成28年3月1日発行 通巻242号
 昭和40年8月21日第3種郵便物認可
 発行/公益社団法人 滋賀県建築士会
 〒520-0801
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館 3F
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

公益社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : shiga-sa@mx.bw.dream.jp

湖国が滋る・水と緑の街づくり

CONTENTS

- ・ 会員増強委員会
平成27年度 二級・木造建築士免許
証明書交付式 開催報告…………… 2
- ・ 青年委員会
第3回 青年建築士交流会 ～話して
広がる青年建築士の輪～ 事業報告
- ・ 青年委員会
あーき塾 産地ブランド化講座～地域
産業のトータルデザイン～ 事業報告
- ・ 大津・湖西滋賀地域会
平成27年度 建築フォーラムご案内・ 3
- ・ 青年委員会
『琵琶湖畔の家』完成見学会開催の
ご案内…………… 4
- ・ 新入会員紹介
- ・ 事務局
会員登録確認のお願い
- ・ 建築の春…………… 5
- ・ 滋賀職能大（ポリテクカレッジ）
からのお知らせ…………… 6
- ・ 3月の暦
- ・ 残しておきたい滋賀の建築 第23回
萬石(まんよ)鍛冶小屋(長浜市鍛冶屋町)



長浜旧開知学校（長浜市元浜町）

木造3階建て、八角棟屋付の擬洋風建築。外壁は白の漆喰で塗り上げられ、三階にベランダを設け、玄関扉の上にはアーチをのせている。さらにガラス窓には鎧戸をつけ、角や玄関回りなどには切石積みをかたどった隅石装飾が施されるなど、随所に西洋風デザインが盛り込まれている。

明治4年(1871年)に滋賀県第一小学校として誕生し、明治7年(1874年)に神戸町に新校舎を建設し、あわせて開知学校という名称をつけた。建設費は3,700円余りだったが、このうちの約3,200円は長浜市民の寄付によるものだった。その後、昭和12年(1937年)に元浜町に移築され、その際に背面側を切り詰め、塔を撤去するなどの改造が行われたため、現存する最古の小学校建築でありながら当初の面影を失っていた。しかし平成12年(2000年)には原形に近い形で修復され、国の登録有形文化財となった。

平成28年2月6日(土)滋賀県建設会館4階大会議室において、(公社)滋賀県建築士会の主催で執り行いました。今年も、二級建築士61名(総受験者数298名)木造建築士14名(総受験者数33名)の方が、免許を取得されました。

県内を中心に20名の参加を得て、新建築士の旅立ちに滋賀県土木交通部建築課課長の小嶋裕司氏の臨席を賜り、建築課の高山氏に依る「建築士の手びき」をもとに建築士の心構えについて、説明をいただきました。建築士会の案内もさせていただき、多くの新しい建築士会員が生まれ、一緒に活動できる事を期待したいと思います。



平成28年2月6日(土)にホテルピアザびわ湖のクリスタルルームにて、52名の方(会員37名、本年度合格者及び会員外15名)にご参加頂き、第3回青年建築士交流会を開催しました。

映像での青年委員会の活動紹介や名前ビンゴのイベント等で、青年委員会の活動に興味を持って頂く事が出来、また、会員や会員以外の建築士の方々、あらたに建築士となられた方々と楽しく交流を行う事が出来ました。

来年度も、更に楽しく有意義な交流会を開催したいと考えております。

ご参加頂きました皆様、本当にありがとうございました。



1月30日(土)ビバシティ彦根2階研修室にて、あーき塾 産地ブランド化講座『地域産業のトータルデザイン』を彦根地域会と協力して開催致しました。

講師に(株)古川ちいきの総合研究所代表、古川大輔氏をお迎えし、ワークショップ形式にて勉強会を行いました。

1時間3コマの計3時間の講習会となりましたが、第1部では地方創生の考え方や林業の現状、第2部では各地の取り組み方や事例を学びました。

第3部では時折クイズを挟みながらのマーケティングや企業のあり方、販売理念などの話を聞き、とても充実した内容のセミナーとなりました。

参加者の中には、他府県より参加して頂いた方もおり、良い交流もできたかと思えます。

建築士会、彦根地域会会員をはじめ多数の皆様にご参加頂きましたことをここに礼申し上げます。

今後とも有意義なセミナーを開催していきたいと思えます。



平成27年度 建築フォーラムご案内

大津・湖西滋賀地区委員会

最近改正された、あるいはこれから改正される建築関連法令の説明会です。

大津市建築指導課と大津市消防局より講師をお迎えして行います。内容の多くは他の市町にも共通する法律改正の解説となりますので、他地区の皆さまもぜひご出席ください。



日 時 平成28年3月24日(木)
13:00～受付開始 13:20～16:30

場 所 大津市民文化会館 多目的ホール
(大津市御陵町2番3号 TEL:522-7165)
※会場は、駐車場が少ないので、公共交通機関
(電車、バス)をご利用ください。



定 員 100名
(FAXによる申し込み先着順とし、定員になり次第締切ります。3/18最終締切)

参 加 費 無 料

内 容 ①開会あいさつ (13:20～13:30) (公社)滋賀県建築士会大津地区委員長
大津市都市計画部建築指導課長

②フォーラムの内容 (13:30～16:00)

講 師

- (1)改正省エネ法の概要と要点について 大津市都市計画部建築指導課
- (2)生活道路拡幅整備推進事業について 大津市都市計画部生活道路整備推進室
- (3)耐震改修促進計画の改定について 大津市都市計画部建築指導課

(休 憩 10分)

- (4)定期調査・報告制度の変更概要について 大津市都市計画部建築指導課
- (5)違反対象物の公表制度について 大津市消防局予防課

③質疑応答 (16:00～16:20)

④閉会あいさつ (16:20～16:30) (公社)滋賀県建築士会湖西滋賀地区委員長

建築フォーラム 参加申込書 大津地域会事務局 (FAX 077-544-6500)			
参加者 住所			
参加者 氏名		連絡先 (携帯)	
所属地区 (建築士会) 大津 湖西滋賀 その他 ()		所属支部 (事務所協会) 大津 その他 () 会員外	

※取得した個人情報は、フォーラム以外には、使用いたしません。

青年委員会40周年記念事業でご講演頂いた伊礼智氏が設計されました「琵琶湖を一望できる二階リビングと離れのある家」の完成見学会を行います。

開催日時：平成28年3月31日(木) 13時30分～15時30分

開催場所：彦根市新海浜2丁目

定員：30名 (先着順)

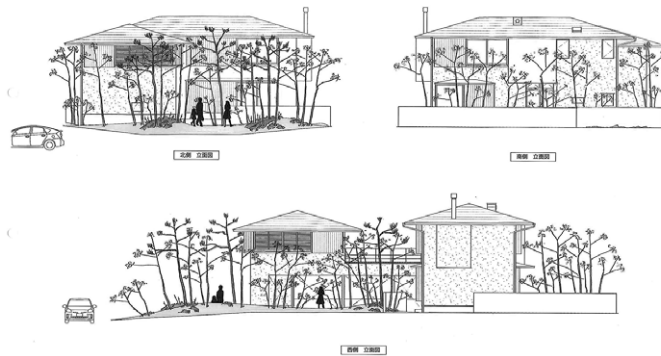
参加費：500円

参加条件：滋賀県建築士会会員・青年建築士交流会にご参加頂いた方

(伊礼智氏の建築に興味があり、マナーを守って頂ける方に限ります)

申込締切：平成28年3月18日(金)

※事務局より「受付完了」をご連絡いたします。当日は受付完了用紙をご持参下さい。



『琵琶湖畔の家』完成見学会 参加申込用紙

氏名	フリガナ	勤務先名称	フリガナ
連絡先	メールアドレス		
	FAX番号		
CPD番号		地区名	

※申し込み頂いた個人情報に関しましては、『琵琶湖畔の家』完成見学会でのみ使用させていただきます。

お申し込みはFAXにて… 公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 **(FAX.077-523-1602)** (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)

新入会員のご紹介

地区	氏名	地区	氏名
大津地区	石浦康雄	湖北地区	橋本慶昭

事務局 会員登録確認のお願い

会員のみなさまに登録について確認をさせていただきます。
2014年の会員名簿発行後、記載内容に変更のある方はご連絡ください。

公益社団法人 滋賀県建築士会
事務局 TEL 077-522-1615

若き建築士たちの熱き思いを、取材を通してご紹介していく新シリーズ「建築の春」です。

第三回

中野 恵 さん

湖南地区（中野建築設計室）

現場とコラボした木の家づくり

「一設計者として今の私自身をお伝えするには、現場を見ていただくのが一番早いと思う。」今回は、中野氏が設計監理をしている現場でのインタビューとなった。教えられた現場に行くと大工さんとの打合せの最中だった。

女性の割合が増えたといってもまだ男性の割合が多い建築の世界である。建築を志したきっかけを聞いた。「安藤忠雄さん設計の木屋町にある“タイムズ”を見たとき、驚きと感動を与えることのできる仕事だと感じた。また実家のリフォームをしてくれたのが女性建築士だった。今まで男性の職業だと思っていたが女性でも挑戦できると思った。」

大学院を卒業後、設計事務所に勤務していたが、結婚を機に退社した。そして友人と設計事務所を設立しいろいろな仕事に携わる中で、大工さんや様々な分野の方と出会い、木造の良さを再確認したのだという。

今回の現場は、中野氏の設計で大津の小山建築さんが施工している。施主の希望で木の家がいいということもあり、桧を市場で購入し自社で天然乾燥させ刻みをしている小山さんとコラボすることを考えた。「小山さんは、日本の大工技術を残すためには、大工人口を減らさないことが大切だと言う。そのためには少人数で小規模な工場でも加工できるシステムが必要で、3寸・4寸・5寸角材のみを使った“2重梁井桁構法”を長年考えておられた。そんな時に今回の現場の相談をしたところ、プランにこの構法が合うと提案された。話を聞くうちに、日本の木の家づくりを未来に繋げたいという思いに共感し、シンプルで明快な構法にも魅力を感じ、採用するに至った。」

構造的にもたわみ等の不安を解消するため、構造設計士に検討を依頼して施主への説明がしっかりとできるようにした。

刻みをすることで工期も伸びる。「図面だけでは実際に建つまでの工程や使う材料がわからないから、説明するために施主を工場に案内し時間がかかる意味を理解してもらった。」そうして、木造の良さを理解してもらって木をふんだんに使った刻みの家を施工している。

「小山さん含め木の家をつくっていこうという共通の思いを持った設計者と大工でチームを組んで仕事をすることもある。今回の構法は私自身学ぶことが多かったなので、機会があればまた挑戦してみたいと思っている。」

現場を見せていただくことで、設計へのこだわりである“居心地がよく、施主や現場に携わったすべての人に愛される家にした”という想いが伝わってきた。



二重梁井桁工法の軸組み

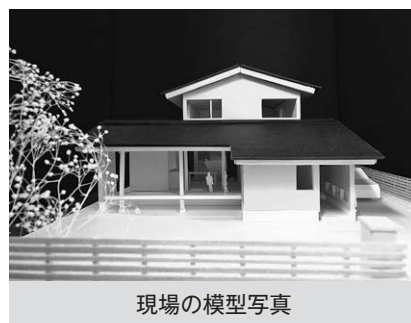
最後に、女性の立場を意識して設計することはあるかと聞いた。「そういうことはないが、女性として主婦として経験が設計に出ているところはあるかもしれない。」

中野氏が現場に自分で淹れたコーヒーを持参していた。細かい気遣いや柔らかい雰囲気が現場との関係を良好にし、設計と施工サイドがうまくコラボすることによって、施主の喜ぶ現場が生まれている。

（取材 ki. haru）



1976年 滋賀県大津市生まれ
建築設計事務所を経て
2009年 MOG一級建築士事務所 共同設立
2014年 中野建築設計室 設立



現場の模型写真



チームを組んで行ったリフォームの内観

滋賀職能大（ポリテクカレッジ）からのお知らせ



コースNo.	コース名	受講料	定員	実施日	講習時間帯
CH011	ネットワーク工程管理技術	¥7,500	10	6/25(土)、7/9(土)	10:00~17:00
CH021	木造住宅における結露防止を考慮した断熱・気密工法	¥7,000	10	7/26(火)、25(水)	10:00~17:00
CH041	構造設計技術（木構造実践編）	¥6,500	10	9/7(水)、14(水)	10:00~17:00
CH031	木造住宅の省エネ設計技術	¥6,500	10	10/5(水)、12(水)	10:00~17:00

各講座ともCPD認定プログラム申請コースです。

講座の概要は <http://www3.jeed.or.jp/shiga/college/business/pdf/H28/2016ch.pdf>

ネットでの受講申し込みは http://www3.jeed.or.jp/shiga/college/business/seminar_form_mousikomi.html

受講申込書のダウンロードは <http://www3.jeed.or.jp/shiga/college/business/pdf/H28/entry2016.pdf>

「オーダーセミナー」のご相談を承ります。

職場やグループ単位での独自研修会「オーダーセミナー」の企画立案のお手伝いをいたします。下記「学務援助課」までお問い合わせください。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
 〈厚生労働省所管〉近畿職業能力開発大学校附属
滋賀職業能力開発短期大学校(滋賀職能大)
www3.jeed.or.jp/shiga/college/

〒523-8510 滋賀県近江八幡市古川町1414

学務援助課 TEL: 0748-31-2254
 FAX: 0748-31-2255

3月の暦

1	火	大安		12	土	大安		23	水	仏滅	
2	水	赤口	監理技術者講習(ピアザ淡海)	13	日	赤口		24	木	大安	
3	木	先勝		14	月	先勝		25	金	赤口	
4	金	友引		15	火	友引		26	土	先勝	
5	土	先負	女性委員会DoシリーズNo.70	16	水	先負		27	日	友引	
6	日	仏滅	女性委員会DoシリーズNo.70	17	木	仏滅		28	月	先負	
7	月	大安		18	金	大安	第19回定例理事会	29	火	仏滅	
8	火	赤口	まちづくり委員会	19	土	赤口		30	水	大安	
9	水	友引		20	日	先勝	春分の日	31	木	赤口	青年員会 琵琶湖畔の家完成見学会
10	木	先負		21	月	友引	振替休日				
11	金	仏滅	情報広報委員会	22	火	先負					

残しておきたい滋賀の建築 第23回

萬右(まんよ)鍛冶小屋(長浜市鍛冶屋町)

戦国時代に湖北を治めていた羽柴秀吉に槍などの武器を献上し、江戸時代以降は農具を直す「野鍛冶」の町として栄えた長浜市鍛冶屋町は、明治時代には100戸以上が鍛冶屋を営んでいた。農作業が一段落する11月ごろになると、職人は滋賀県内や京都府、福井県、岐阜県を回り、農家から修理が必要な鍬や鋤を集め、冬の間直し、春に返していた。

萬右鍛冶小屋は、切妻造、棧瓦葺で、鍛冶作業場は桁行三間、梁行二間あり、防火のため天井は一面土で覆われている。今から100年ほど前に建てられ、集落で唯一、鍛冶仕事ができる状態で残り、伝統をつなごうと月に2回、地域住民たちが鍛冶屋の技を磨いている。

